

平成28年度(2016)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター一年報

平成30年3月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成28年度  
花・野菜技術センター年報  
目次

<b>I 総説</b>	
1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	6
<b>II 作況</b>	
1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7
<b>III 事業の推進方向と成果の概要</b>	
1. 研究部	10
2. 技術普及室	12
<b>IV 試験研究および地域支援等活動の課題名</b>	
1. 花き野菜に関する試験	13
2. 栽培環境に関する試験	14
3. 病害虫に関する試験	15
4. 技術体系化に関する試験	15
5. 地域支援に関する試験等	16
<b>V 研修事業の概要</b>	
1. 概要	17
2. 研修事業の推進	17
3. 北海道花き・野菜技術研修	18
4. 研修ほ場等作付概要	22
<b>VI 研究発表並びに普及事項</b>	
1. 研究報告・資料	23
2. 印刷刊行物	25
3. 普及事項	25
<b>VII その他</b>	
1. 職員の研修	27
2. 見学・参観	27
3. 研修生の受入れ（研修事業以外）	28
4. 委員会活動	28
5. 公開デー2016の実施	29
6. 講師等の派遣	29
7. 各種委員	30
<b>VIII 自己点検への対応</b>	31

# I 総 説

## 1. 沿革

### (1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、北海道立総合研究機構の農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

### (2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設さ

れ、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

### (3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

### (4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年

度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

## 2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35' 東経141° 59'

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

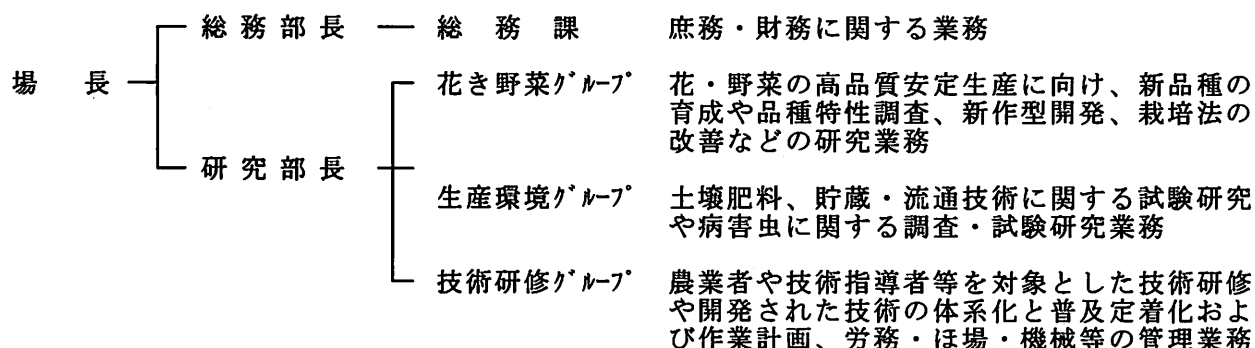
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

## 3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

## 4. 機 構 （平成29年3月31日現在）



（花・野菜技術センター技術普及室＊）

上席普及指導員 — 主任普及指導員

＊ 北海道農政部生産振興局技術普及課

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

## 5. 職員

### (1) 職員数 (平成29年3月31日現在)

区分	場長	部長	総務課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究(プロバ-)		1		7	6	3	17
研究支援(プロバ-)			2			5	7
研究支援(道派遣)	1	1	3			2	7
計	1	2	(兼務1外教) 5	7	6	10	32

### (2) 現職員名簿 (平成29年3月31日現在)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名	
総務部	場長	長沢 基	生産環境G	主査(栽培環境)	後藤 英次	
	総務部長	高林 仁和	"	研究主査	田丸 浩幸	
	総務課	総務課長(兼)	"	研究主査	野田 智昭	
	"	主査(総務)	"	主査(病虫)	佐々木 純	
	"	主査(調整)	"	研究主査	白井 佳代	
	"	指導主任	岩橋 広樹	技術研修G	研究主幹	福川 英司
	"	主任	佐藤 勝宏	"	主査(技術研修)	柳田 大介
研究部	"	"	"	主査(技術研修)	植野 玲一郎	
	研究部長	安積 大治	"	主査(研修)	清水 政宏	
	花き野菜G	研究主幹	"	主任	高橋 英樹	
	"	主任研究員	"	指導主任	及川 忠	
	"	主査(花き)	"	"	玉川 忠	
	"	主査(野菜)	"	主任	南 貴夫	
	"	研究主査	田縁 勝洋	"	"	寺口 佳孝
	"	研究主任	木村 文彦	"	"	梶山 幸道
	"	"	江原 清	"	"	
	"	専門研究員	小田 義信	(道技術普及室)	上席普及指導員	池田 信
生産環境G	研究主幹	美濃 健一	"	主任普及指導員	小林 孝夫	

### (3) 転入・採用

職名	氏名	採用転入年月日	備考
総務部 部長	高林 仁和	28. 4. 1	監査委員事務局総括監査課
総務部 総務課 課長(兼)	高林 仁和	28. 4. 1	監査委員事務局総括監査課
総務部 総務課 主査(調整)	市川 雅一	28. 4. 1	空知総合振興局北部耕地出張所
研究部 花き野菜G 研究主任	江原 清	28. 4. 1	農業研究本部上川農業試験場
研究部 生産環境G 研究主幹	美濃 健一	28. 4. 1	農業研究本部道南農業試験場
研究部 技術研修G 主査(技術研修)	植野 玲一郎	28. 4. 1	農業研究本部道南農業試験場

## (4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
総務部 部長	館 山 巖	28. 4. 1	オホーツク総合振興局保健環境部
総務部 課長(兼)	館 山 巖	28. 4. 1	オホーツク総合振興局保健環境部
総務部 主査(調整)	藤 田 賢 司	28. 4. 1	根室振興局産業振興部農務課
研究部 花き野菜G 研究主任	大久保 進 一	28. 4. 1	農業研究本部道南農業試験場
研究部 生産環境G 研究主幹	角 野 晶 大	28. 4. 1	農業研究本部道南農業試験場
研究部 生産環境G 研究主査	橋 本 直 樹	28. 4. 1	農業研究本部中央農業試験場

## 6. 収入支出決算額

## (1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
技術普及指導手数料	468,200
農産物売払収入	98,038
不用品売払収入	24,080
法人財産使用料等	344,264
その他雑収入	0
共同研究費負担金	2,800,000
国庫受託研究収入	1,604,000
道受託研究収入	1,538,520
その他受託研究収入	18,109,000
計	24,986,102

※事業費支弁人件費振替額及び施設整備費補助金収入を含まない

## (2) 支出決算額

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	2,400,000	2,151,487	0	248,513
職 員 研 究 奨 励 費	792,000	770,604	0	21,396
経 常 研 究 費	13,296,000	12,905,850	0	390,150
研 究 開 発 推 進 費	555,000	245,068	0	309,932
技 術 普 及 指 導 費	5,986,200	5,826,527	0	159,673
研 究 用 備 品 整 備 費	3,523,527	3,523,527	0	0
維 持 管 理 経 費	62,384,461	62,384,461	0	0
運 営 経 費	62,713,366	62,693,952	0	19,414
共 同 研 究 費	2,800,000	2,800,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	1,468,000	1,467,332	0	668
道 受 託 研 究 費	1,539,000	1,538,520	0	480
そ の 他 受 託 研 究 費	17,379,000	17,376,621	0	2,379
計	174,836,554	173,683,949	0	1,152,605

※事業費支弁人件費振替額及び施設整備費を除く

## 7. 建 物

(1) 現有（平成29年3月31日現在）

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86㎡
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃 -2	〃	29.16

< 続き >

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46 m <sup>2</sup>
"    4	"	26.46
"    5	"	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

## 8. 施設および備品

### (1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

### (2) 新たに購入した備品（50万円以上）

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
気象観測システム	1	ウェザーハケット(三脚付) 備エスイー、TA-WL-2S、TA-WL-T RA	733,320	花き野菜G
軽貨物自動車	1	4AT、4輪駆動 ダイハツ EBD-S510P-TQRF	867,997	総務課
乗用自走芝刈り機	1	エンジン出力22PS 備丸山製作所 MGA229型(4WD)	840,000	総務課
除雪機	1	エンジン出力17.3PS 共和産業備 SX1792-N	810,000	総務課
乗用芝刈り機	1	エンジン出力20PS 東興産業備 D125型	614,844	総務課
自走式ラジコン防除機	1	ポンプ圧力5MPa、吸水量32L/min 備やまびこKIYORITZ WGR617V-10	685,800	総務課
設備機器及びエチレン発生装置(保鮮実験棟)	1	保冷库3・4 三菱 ER-EP22A(2基)	19,731,600	生産環境G



## Ⅱ 作 況

### 1. 気象概要

#### (1) 冬期間の経過

冬期間（11月～3月）の：平均気温は2月下旬は低く、2月中旬、3月中～下旬は高かった。降水量は12月上旬が多く、1月中～下旬、2月下旬、3月の中旬は少なかった。日照時間は11月各旬および1月上旬は極めて少なく、2月上～中旬は少なかった。

#### (2) 農耕期間の経過

農耕期間（5月から9月）の平均気温は5月上～中旬は高かったが、6月上～7月上旬が低く、8月下旬～9月上旬は高く9月中旬は低く推移した。農耕期間の積算気温は2682.0℃で平年の97.8%であった。

降水量は5月下旬～7月上旬までは多く、7月中旬は少なく、8月中旬は台風のため極めて多かった。8月下旬は多く、9月は少なかった。農耕期間を通しての積算降水量は752mmで平年の135.3%であった。

日照時間は5月は多かったが、6月上～中旬は少なく、8月上旬は極めて多かった。その後は9月上旬は少なかった。

本年の農耕期間の気象は、気温はやや低く推移し、降水量は極めて多い旬があり、全体的にも多く推移した。やや低温で多雨が特徴的であった。

#### (3) 月別の経過

4月：平均気温は上旬は高く、中～下旬はやや平年並であった。降水量は中旬がやや多かったが他は平年並であった。日照時間は上旬はやや多く、中旬はやや少なく、下旬はやや多かった。

5月：平均気温は上旬は平年並で、中～下旬は高く推移した。降水量は上旬がやや多く、中は平年並で下旬は多かった。日照時間は上旬は平年並で、中～下旬はやや多かった。

6月：平均気温は平年に比べ低く推移した。降水量は多く、日照時間は上～中旬がやや少なく、下旬はやや多かった。

7月：平均気温は上旬は低く、中～下旬は平年並であった。降水量は中旬が多かった。日照時間は上旬は多く、中下旬は平年並であった。

8月：平均気温は平年並で推移した。降水量は上旬はやや多かったが、中～下旬は極めて多かった。日照時間は上旬は極めて多く、中～下旬平年並であった。

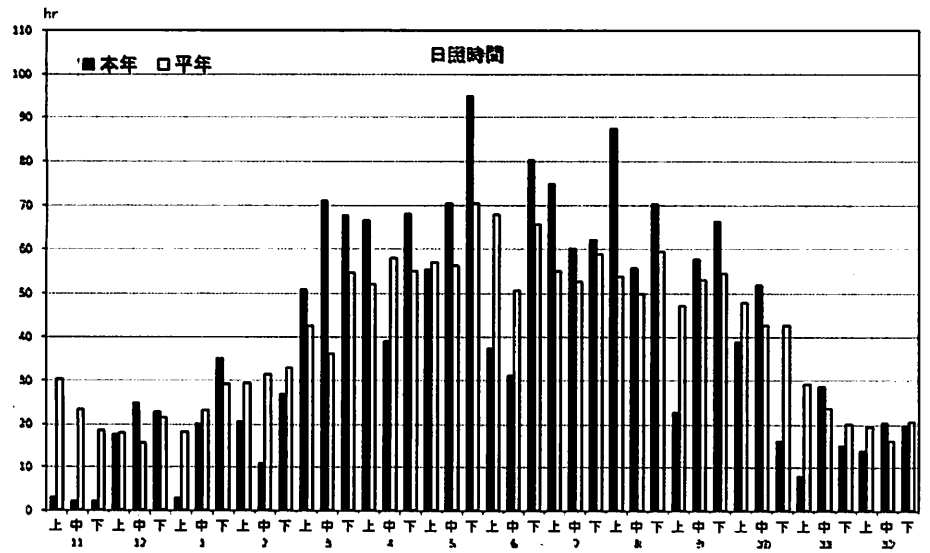
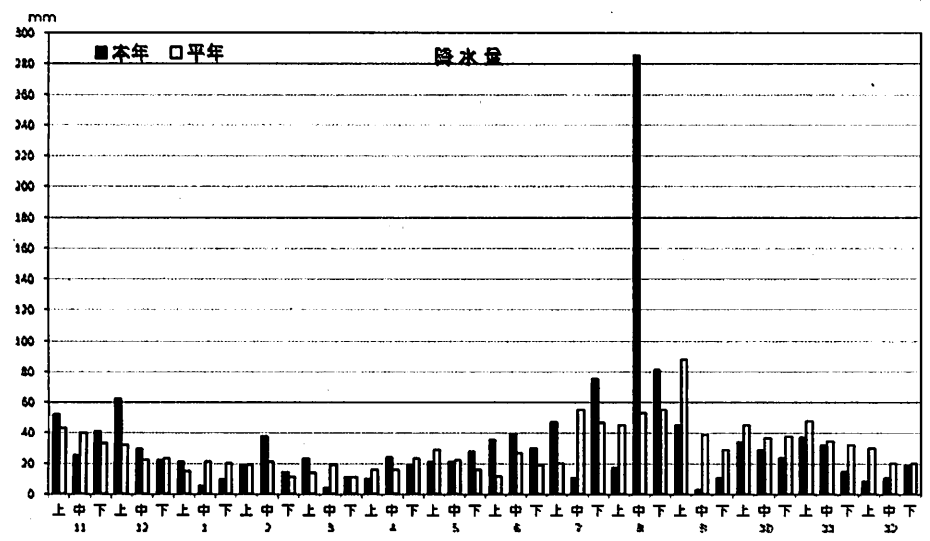
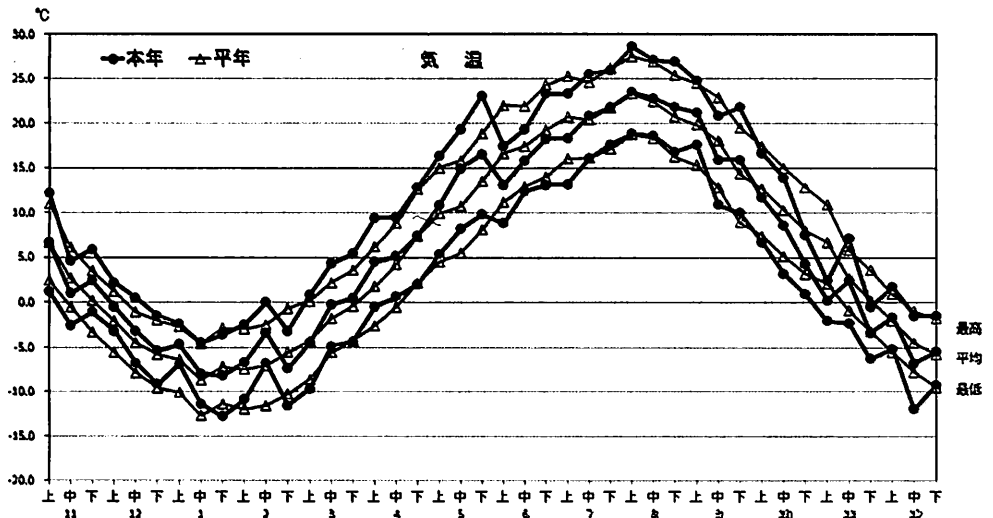
9月：平均気温は上旬が平年並で、中旬がやや低く、下旬は平年並であった。降水量は各旬を通して少なかった。日照時間は上旬は少なかったが、中旬は平年並で下旬はやや多かった。

10月：平均気温は低かった。降水量は平年並で、日照時間は上～中旬は平年並で下旬は多かった。

### 2. 野菜類の生育状況

#### (1) いちご（対象品種：「けんたろう」）

平成27年8月25日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。9月下旬の気温が平年より1.6℃高く、10月中～下旬は1.3～1.6℃低かった。ハウス内融雪期は3月12日と早かった。また、平年に比べ3月中旬～4月上旬の気温が高く日照時間が多かったため、「けんたろう」の開花始期は4月10日となり平年より8日早かった。収穫始期は5月15日で平年より7日早かった。5月中～下旬の気温は平年に比べ2.3～3.0℃高かったが、6月上～中旬が0.7～1.5℃低かったため、収穫後半の果実肥大が良好となった。このため、規格内一果重は14.6gで平年より12%重く、規格内収穫果数は198千個/10aで平年より40%多くなった。「けんたろう」の総収量は3456kg/10aの多収、規格内収量も2873kg/10aで平年より56%多かった。Brixは9.6%で平年並みであった。



平成27年度滝川気象図

気象表 (平成27年11月～平成28年12月)

年 月 旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			降水日数 (日)			日照時間 (時間)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
H27	上	6.7	6.7	0.0	12.2	11.0	1.2	1.2	2.4	△ 1.2	52	43	9	5	6	△ 1	2.9	30.3	△ 27.4
	11中	1.0	2.7	△ 1.7	4.6	6.1	△ 1.5	-2.6	-0.5	△ 2.1	26	40	△ 15	5	7	△ 2	2.1	23.3	△ 21.2
	下	2.4	0.2	2.2	5.9	3.5	2.4	-1.1	-3.3	2.2	41	33	8	8	6	2	2.1	18.5	△ 16.4
	上	-0.5	-2.1	1.6	2.2	1.2	1.0	-3.2	-5.6	2.4	63	32	31	7	6	1	17.7	18.0	△ 0.3
	12中	-3.2	-4.5	1.3	0.5	-1.1	1.6	-6.8	-7.9	1.1	30	22	8	5	6	△ 1	24.7	15.7	9.0
	下	-5.4	-5.8	0.4	-1.5	-2.0	0.5	-9.2	-9.6	0.4	22	23	△ 1	8	7	1	22.7	21.5	1.2
H28	上	-4.7	-6.4	1.7	-2.4	-2.7	0.3	-6.9	-10.1	3.2	21	15	6	8	5	3	2.7	18.2	△ 15.5
	1中	-8.0	-8.7	0.7	-4.5	-4.6	0.1	-11.4	-12.7	1.3	6	21	△ 16	4	6	△ 2	20.1	23.2	△ 3.1
	下	-8.2	-7.2	△ 1.0	-3.6	-2.9	△ 0.7	-12.8	-11.4	△ 1.4	10	20	△ 11	6	6	0	35.0	29.1	5.9
	上	-6.7	-7.5	0.8	-2.5	-3.0	0.5	-10.9	-12.0	1.1	19	19	0	8	6	2	20.5	29.3	△ 8.8
	2中	-3.4	-7.1	3.7	0.0	-2.5	2.5	-6.8	-11.6	4.8	38	21	17	7	6	1	10.9	31.3	△ 20.4
	下	-7.4	-5.6	△ 1.8	-3.2	-0.7	△ 2.5	-11.6	-10.3	△ 1.3	15	11	4	6	4	2	26.8	32.9	△ 6.1
	上	-4.5	-4.3	△ 0.2	0.8	0.1	0.7	-9.7	-8.6	△ 1.1	23	14	9	6	5	1	50.7	42.6	8.1
	3中	-0.3	-1.8	1.5	4.3	2.2	2.1	-4.9	-5.6	0.7	4	19	△ 15	4	5	△ 1	70.9	36.1	34.8
	下	0.5	-0.4	0.9	5.4	3.6	1.8	-4.4	-4.3	△ 0.1	11	11	0	3	4	△ 1	67.6	54.6	13.0
	上	4.5	1.8	2.7	9.4	6.2	3.2	-0.5	-2.6	2.1	10	16	△ 6	4	5	△ 1	66.5	52.0	14.5
	4中	5.1	4.2	0.9	9.5	8.8	0.7	0.6	-0.5	1.1	25	16	9	7	3	4	39.1	57.9	△ 18.8
	下	7.4	7.4	0.0	12.8	12.6	0.2	2.0	2.2	△ 0.2	19	23	△ 4	4	5	△ 1	68.1	55.0	13.1
	上	10.8	9.9	0.9	16.3	15.0	1.3	5.3	4.5	0.8	21	29	△ 8	4	5	△ 1	55.4	57.0	△ 1.6
	5中	14.9	10.7	4.2	19.3	15.8	3.5	8.2	5.5	2.7	21	22	△ 1	3	2	1	70.4	56.3	14.1
	下	16.5	13.5	3.0	23.1	18.8	4.3	9.8	8.1	1.7	28	16	12	4	3	1	95.0	70.4	24.6
	上	13.1	16.6	△ 3.5	17.4	22.0	△ 4.6	8.8	11.2	△ 2.4	36	12	24	5	3	2	37.5	67.8	△ 30.3
	6中	15.8	17.4	△ 1.6	19.3	21.9	△ 2.6	12.4	12.9	△ 0.5	40	27	13	6	4	2	31.2	50.6	△ 19.4
	下	18.2	19.2	△ 1.0	23.3	24.3	△ 1.0	13.1	14.0	△ 0.9	30	19	11	2	2	0	80.3	65.6	14.7
	上	18.3	20.7	△ 2.4	23.3	25.3	△ 2.0	13.2	16.0	△ 2.8	48	20	28	5	3	2	74.7	55.0	19.7
	7中	20.8	20.4	0.4	25.5	24.6	0.9	16.0	16.1	△ 0.1	11	55	△ 45	3	3	0	60.1	52.6	7.5
	下	21.8	21.7	0.1	25.9	26.2	△ 0.3	17.6	17.1	0.5	76	47	29	4	3	1	62.2	58.9	3.3
	上	23.5	23.3	0.2	28.6	27.5	1.1	18.8	18.7	0.1	18	45	△ 28	2	3	△ 1	87.4	53.7	33.7
	8中	22.8	22.4	0.4	27.1	26.9	0.2	18.6	18.3	0.3	286	53	233	3	4	△ 1	55.8	49.8	6.0
	下	21.8	20.7	1.1	26.9	25.4	1.5	16.8	16.2	0.6	82	55	27	6	4	2	70.2	59.4	10.8
上	21.2	19.8	1.4	24.8	24.5	0.3	17.6	15.3	2.3	45	88	△ 43	4	5	△ 1	22.7	47.1	△ 24.4	
9中	15.9	18.0	△ 2.1	20.8	22.9	△ 2.1	10.9	12.8	△ 1.9	3	39	△ 36	3	4	△ 1	57.7	53.0	4.7	
下	15.9	14.3	1.6	21.8	19.5	2.3	10.0	8.9	1.1	11	29	△ 19	2	4	△ 2	66.3	54.4	11.9	
上	11.7	12.7	△ 1.0	16.6	17.4	△ 0.8	6.7	7.4	△ 0.7	34	45	△ 11	8	5	3	38.8	47.9	△ 9.1	
10中	8.6	10.3	△ 1.7	13.9	15.0	△ 1.1	3.2	5.1	△ 1.9	29	37	△ 8	6	6	0	51.9	42.7	9.2	
下	4.2	8.0	△ 3.8	7.5	12.8	△ 5.3	0.9	3.2	△ 2.3	24	38	△ 14	6	5	1	16.2	42.8	△ 26.6	
上	0.2	6.7	△ 6.5	2.4	10.9	△ 8.5	-2.1	2.1	△ 4.2	38	48	△ 11	7	6	1	7.9	29.2	△ 21.3	
11中	2.4	2.7	△ 0.3	7.1	5.8	1.3	-2.3	-0.9	△ 1.4	32	35	△ 3	7	6	1	28.6	23.6	5.0	
下	-3.4	0.2	△ 3.6	-0.5	3.6	△ 4.1	-6.3	-3.2	△ 3.1	15	32	△ 17	8	6	2	15.1	20.0	△ 4.9	
上	-1.7	-2.1	0.4	1.7	0.9	0.8	-5.2	-5.6	0.4	9	30	△ 22	5	6	△ 1	13.8	19.4	△ 5.6	
12中	-6.8	-4.5	△ 2.3	-1.5	-1.0	△ 0.5	-12.0	-7.8	△ 4.2	11	20	△ 10	3	6	△ 3	20.3	16.1	4.2	
下	-5.5	-5.8	0.3	-1.5	-1.8	0.3	-9.3	-9.5	0.2	19	20	△ 1	6	6	0	19.6	20.6	△ 1.0	
5~9月積算	2682.0	2742.0	△ 60.0	3490.2	3477.1	13.1	2004.2	1997.8	6.4	752	556	196	56	52	4	926.9	851.6	75.3	
平年比(%)	97.8			100.4			100.3			135.3			107.7			108.8			

注1 滝川地域気象観測所のANeDAS観測値。 注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。 注3 平年値は前10カ年の平均値。 注4 △印は減を示す。

### Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

#### 1. 研究部

##### (1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、道内で栽培されている品目の品質管理技術改善試験を実施する。野菜では、いちごの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

- ①「実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立」では、しゃくやくおよびりんどうについて切り前や貯蔵条件が開花率および花持ちに及ぼす影響について明らかにした。
- ②「良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発」では、愛知県、長崎県および農業・食品産業技術総合研究機構で育成された品種・系統の寒冷地適応性を評価するため、作期別特性調査を実施した。
- ③「ダリア、スターチス・シヌアータ等の品質保持技術の改善及び輸送試験による実証」では、ダリア、スターチス・シヌアータおよびスカビオサについて輸送実証試験を実施した。
- ④「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種の育成を目標に、交配および育成系統の選抜を行った。「空知交36号」の検定を中止し、生産力予備試験では「23交8-16」を中止、「23交13-5」を継続して検討した。
- ⑤「野菜地域適応性検定」のうち、いちごでは、「空知36号」は検定を中止しすることとした。たまねぎでは、「北見交67号」の検定を中止することとした。
- ⑥「長期収穫いちご栽培に向けた炭酸ガス施用効果と地中熱等を活用した局所空調の効果」では、炭酸ガス施用の効果は判然としなかった。ク라운部冷却による局所空調の効果も一部の区でしか認められなかった。
- ⑦「多作型・多装備の日本型大規模施設園芸における発展スキームの構築」では、いちごの局所冷暖房による増収効果ならびに燃料節減効果の検証を行った。
- ⑧「生物多様性の保全に配慮した在来種によるトマト授粉用生物資材の開発」では、エゾオオマルハナバチ系統により授粉したトマトをセイヨウオオマルハナバチで授粉したトマトと比較したが、

大きな差はみられなかった。

- ⑨「トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、新たに開発された簡易養液栽培システムを利用して、トマト栽培における北海道での養液栽培システムの適正な栽培技術を検討したが、2本仕立てと比較して1本仕立ての収量性は優れ、2本仕立て間(主枝+側枝、子葉上摘心、2葉上摘心)では差はみられなかった。
- ⑩「省力・低コスト化と持続的大規模経営を可能にする野菜導入型水田作営農モデルの実証」では、地下灌漑によって加工用トマトの干ばつを回避するため、果実肥大期における灌水効果について検討したが、灌水区は無灌水区に比べ良果の割合が高かった。
- ⑪「加工用トマトの機械収穫に対応した栽培法開発」では加工用トマト栽培の機械化に向けた、セル成型苗および摘心処理を検討した結果、セル成型苗無摘心区はポット苗一斉収穫区より良果率が高く、多収となった。
- ⑫「加工向けにんじん品種の特性評価」では、加工向けにんじんとしての品種特性を明らかにするため、12系統を供試し、抽台性、収量性、貯蔵性を評価し、総合評価では標準品種の「アンビシャス」に比べ、「ベータクイーン」と「カーソン」が良好であった。
- ⑬「ニンニク在来系統の特性評価試験」では、ウイルスフリー化した6系統をガラス温室内で養成し、肥大性の調査実施後、10~15gのりん片が多く生産された3系統については生産力検定に供試する。
- ⑭「生分解性マルチ資材の適用性試験」では、生分解性マルチ資材について、展張時の作業性、崩壊性、作物への影響をポリエチレンマルチ(以降、ポリマルチと表記)と比較、検討したが、供試作物(スイートコーン)の生育、収量に大きな差はみられなかった。使用後の土中での崩壊性においては生分解性マルチ資材「サンバイオ」の分解が進んでいた。
- ⑮「かぼちの茎葉処理機の開発」では、かぼち収穫作業の省力化を図るため、かぼち茎葉処

理機を開発するとともに、茎葉処理時に発生する打撲及び加圧が品質に与える影響について評価したが、腐敗の多くは果梗部または花痕部からの発生であり、落下処理での接地部分から発生した腐敗はみられなかった。

⑯「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証」では、MA包装資材を活用して、道産赤肉メロンの船便輸出および冬季出荷について検討し、12月に行った出荷試験では着果から収穫日までの積算気温が高いほど果肉は軟らかかった。6週間目までの貯蔵では果皮にカビの発生はみられなかったが、8週目では陥没がみられた。

⑰「農業資材試験」では、実エンドウおよびたまねぎに対する除草剤2点について成績をとりまとめた。

## (2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

### 栽培環境に関する試験

①「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度移出体系」では、夏品および秋品の道産ブロッコリーに関して、場内での蔵置試験2回と輸送実証試験2回を実施し、MA包装資材による包装と現状の氷詰め発泡スチロール箱包装の鮮度保持状況を比較検討した。過年度の結果も併せて有用性が確認されたことから、「MA包装フィルムを用いたブロッコリーの低コスト・鮮度保持流通技術」としてとりまとめ、普及推進事項となった。

②「春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発」では、結球レタスおよび非結球レタスの窒素吸収特性を解析するとともに、分施および緩効性肥料の使用が収量・品質等に及ぼす影響を検討し、「春夏まきレタスの品種特性および窒素施肥技術と食感評価法の開発」としてとりまとめ、指導参考事項となった。

③「さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価」では、蒸切干向け5品種、ペースト向け6品種を栽培して収量性他や収穫時期の影響を調査するとともに、場内および実需者による加工適性を評価した。

④「トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、発泡スチロール性トロ箱を用いた簡易養液栽培システムを利用したミニトマト栽培において、給液量および仕立て方法の影響を検討した。

⑤「輸出向け低コスト生産に向けた直播たまねぎの球肥大改善及び長期貯蔵技術の検討」では、栽培法（直播、移植）、規格、施肥法（全量基肥、基肥十分施）が貯蔵性に及ぼす影響を検討した。

⑥「北海道のサツマイモのカリ施肥方法の確立」では、カリ施肥量（4段階）および緩効性カリ（ケイ酸カリ）を用いてさつまいもを栽培することにより、そのカリ吸収特性や収量性に及ぼす影響を検討した。

⑦「農業資材試験」では、レタス及びブロッコリーに対するセル成型育苗培土「新プラグエース」の育苗適応性を確認し、指導参考事項となった。

⑧「生理障害診断試験」では5件の診断依頼に対応した。

⑨「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、2地区4点の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。

### 病害虫に関する試験

①「農作物病害虫診断試験」では、52件の診断依頼に対応した。

②「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、検定系統1系統について疫病、萎黄病、萎凋病の特性検定を実施し、「23交13-5」の検討を継続するとされた。

③「ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立」では、斑点病、葉かび病、すすかび病の主要産地での発生および被害実態、発生要因、作型や品種別の発生推移、各病害に対する薬剤の効果などを調査した。これまでの成果から「ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の発生実態と防除対策」としてとりまとめ、指導参考事項となった。

④「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病について、時期ごとの発生量などを調査した。

⑤「農業資材試験」では、殺菌剤27点についてその効果を調査した。また、試験課題での実施分を含め、複数事例で有効性が認められた17点の資材が指導参考事項となった。

### (3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

#### 革新的技術導入による地域支援

①「地域の食文化支援のためのたまねぎブランド品種「札幌黄」の安定生産に向けた技術支援」では、札幌市のたまねぎ生産者ほ場において育苗ポット内リン酸増肥処理の効果実証を行い、慣行と同程度の生育、収量性であることを確認した。高畦移植栽培は慣行より収量性が向上し、湿害回避効果があることを確認した。さらに、移植時の鎮圧程度と移植後の苗生育良否との関係を明らかにできた。得られた知見の一部は平成28年11月に開催された、たまねぎセミナーにおいて発表するとともに、育苗講習会等においても伝達・浸透を図った。

## 2. 技術普及室

### (1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学校の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

### (2) 成果の概要

#### 1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

#### 2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して、技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか花き野菜グループと生産環境グループからの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

### 3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における、講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による農大稲作経営コース集中講義の支援を行った。

### 4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、農業者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

## IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

### 1. 花き野菜に関する試験

十勝農試、北見農試

(1) 実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立 (323281)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：しゃくやく、りんどうについて需要に合わせた安定出荷にむけ、開花可能な収穫時期を明らかにするとともに、自然エネルギー等を活用した鮮度保持技術を開発する。

(2) 良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の開発 (623260)

試験期間：平成26～28年

担当 G：花き野菜G

目的：従来品種より観賞期間が長く、安定生産の阻害要因となる萎凋細菌病抵抗性を有し、暖地および寒冷地の産地に適応するカーネーション品種を育成するため、選抜系統の寒冷地作型における特性評価を行う。

(3) ダリア、スターチス・シヌアータ等の品質保持技術の改善及び輸送試験による実証 (623281)

試験期間：平成28年

担当 G：花き野菜G

目的：ダリア、スターチス・シヌアータおよびスカビオサについて品質保持の実態調査および実証試験を行い、技術改善のための情報を得る

(4) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成25～29年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種（現行基準収量：2t/10a→目標収量：2.5t/10a）を育成する。

(5) 野菜地域適応性検定（いちご、たまねぎ） (213300)

試験期間：昭和63年～

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試、

目的：育成系統の各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

(6) 長期収穫いちご栽培に向けた炭酸ガス施用効果と地中熱等を活用した局所空調の効果 (723461)

試験期間：平成27～28年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道における植物工場において高収量を目指すための、局所空調、炭酸ガス施用効果を検討する。

(7) 多作型・多装備の日本型大規模施設園芸における発展スキームの構築 (623381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：いちごの局所冷暖房による増収効果ならびに燃料節減効果の検証を行うとともに植物工場での実証を行う。

(8) 生物多様性の保全に配慮した在来種によるトマト授粉用生物資材の開発 (623372)

試験期間：平成27～29年

担当 G：花き野菜G

目的：エゾオオマルハナバチ系統により授粉したトマトの品質を明らかにする。

(9) トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立 (623372)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：簡易養液栽培システムを利用し適正な栽培技術を明らかにする。

(10) 省力・低コスト化と持続的大規模経営を可能にする野菜導入型水田作営農モデルの実証 (627581)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：地下灌漑システムを利用し、定植時および果実肥大期の干ばつを回避する事により、安定栽培のための地下灌漑制御技術を確立する。

(11)加工用トマトの機械収穫に対応した栽培法開発 (627581)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：加工用トマトの機械化作業体系を検討し、省力化技術を確立する。

(12)加工向けにんじん品種の特性評価 (333371)

試験期間：平成27～28年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道におけるにんじん生産振興を図るため、特に加工用途に適した品種の特性を明らかにする。

(13)ニンニク在来系統の特性評価試験 (723372)

試験期間：平成27年～30年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道で収集された複数のニンニク在来系統に関する農業特性を評価し、情報を得ることで道内産のニンニク安定生産への資とする。

(14)生分解性マルチ資材の適用性試験 (723371)

試験期間：平成27～28年

担当 G：花き野菜G

目的：生分解性資材の実際の露地野菜栽培時における利用特性を明らかにする。

(15)かぼちゃの茎葉処理機の開発 (727381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：かぼちゃの収穫作業の省力化を図るため、かぼちゃの茎葉処理機を開発するとともに、茎葉処理時に発生する打撲及び加圧が品質に与える影響を評価する。

(16)MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果について、道産ブロッコリーの道外移出および道産赤肉メロンの輸出および12月に出荷するための活用方法を明らかにする。

(15)農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和40年～

担当 G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

## 2. 栽培環境に関する試験

(1)MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材や前処理技術を組み合わせた蔵置・輸送試験を行うことにより、ブロッコリーの道外移出における現行法に代替可能で高鮮度を維持できる輸送技術や赤肉メロンの12月出荷を目指した貯蔵技術等を開発する。

(2)春夏まきレタスの窒素施肥法改善と食味評価に基づく品質向上技術の開発 (325361)

試験期間：平成26～28年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：品質の優れた春夏まき道産レタスを生産するため、レタスの窒素吸収特性に基づき、窒素施肥法の見直しを図る。また、レタスの食味評価法を開発するとともに、官能評価を加味して品種特性を整理する。

(3)さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価 (213373)

試験期間：平成27～29年

担当 G：生産環境G

目的：北海道におけるさつまいも栽培に適した苗質、育苗技術を開発するとともに、蒸し切干やペースト等の加工適性を評価し、品種選定を行う。



(4) トマトにおける養液栽培システム「ういずOn e」を用いた省力低コスト栽培法の確立(513381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：発泡トロ箱を用いた簡易養液栽培システムを利用してトマト栽培を行うため、苗、仕立て法、給液量等を検討し、適正な栽培技術を明らかにする。

(5) 輸出向け低コスト生産に向けた直播たまねぎの球肥大改善及び長期貯蔵技術の検討(723381)

試験期間：平成28年

担当 G：生産環境G

目的：道産たまねぎの輸出拡大に向け、低コスト生産につながる直播たまねぎの貯蔵性を評価するとともに加工・業務用途に対応した長期貯蔵技術開発に向けた知見を得る。

(6) 北海道のサツマイモのカリ施肥方法の確立(725381)

試験期間：平成28～29年

担当 G：生産環境G

目的：北海道で栽培されるさつまいもの生育特性に基づき、適正なカリ施肥量を設定するとともに緩効性カリ肥料の効果を明らかにする。

(7) 農業資材試験 肥料・土壌改良材およびその他資材(729400)

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産環境G

目的：肥料および土壌改良材の野菜に対する実用性について検討する。

(8) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験(216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて現場に診断を依頼される農作物の生理障害を迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を示す。

(9) 農業農村整備事業等に係る土壌調査(426500)

試験期間：昭和40年～

担当 G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：土地改良計画地域の土壌調査を実施する。

### 3. 病害虫に関する試験

(1) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験(216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(2) ミニトマトの主要病害に対する効率的防除対策の確立(326362)

試験期間：平成26～28年

担当 G：生産環境G

目的：道内におけるミニトマトの安定生産を支えるために、主要病害の発生・被害実態を明らかにし、これらに対する効率的な総合防除対策を確立する。

(3) 病害虫発生予察調査(426500)

試験期間：昭和16年～

担当 G：生産環境G

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当場ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

(4) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤(729400)

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産環境G

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

### 4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

## 5. 地域支援に関する試験等

### (1) 地域の食文化支援のためのたまねぎブランド 品種「札幌黄」の安定生産に向けた技術支援

(319971)

試験期間：平成28～29年

担当 G：技術研修G

目的：札幌市内のたまねぎブランド品種「札幌黄」栽培圃場において、リン酸減肥指針を活用した本圃リン酸施肥量削減と高畦移植栽培技術による収量安定並びに球品質向上効果等を実証する。

## V 研修事業の概要

### 1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

### 2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種見学説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

#### (1) 研修事業説明の経過

- 1) 4月14日  
市町村等訪問(胆振総合振興局、JAとまこまい広域)
- 2) 4月18日  
市町村等訪問(空知総合振興局、空知農業改良普及センター本所)
- 3) 4月21日  
市町村等訪問(胆振総合振興局、JAとまこまい広域)
- 4) 4月25日  
市町村等訪問(岩見沢農業高等学校)
- 5) 5月11日  
高等学校校長会農業部会
- 6) 5月13日  
市町村等訪問(留萌振興局、留萌農業改良普及センター本所)
- 7) 6月27日  
市町村等訪問(大野農業高等学校、渡島農業改良普及センター本所)
- 8) 6月30日  
市町村等訪問(上川総合振興局、上川農業改良普及センター本所)
- 9) 7月6日  
拓殖短大農場公開デー
- 10) 8月29日

北海道指導農業士会役員会

- 11) 9月15日  
市町村等訪問(厚真町)
- 12) 9月25日  
市町村等訪問(美深町、名寄市、名寄産業高等学校)
- 13) 10月20日  
市町村等訪問(旭川市農業センター)
- 14) 11月1日  
市町村等訪問(伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、JA伊達市、JAとうや湖、胆振農業改良普及センター本所)
- 15) 11月2日  
市町村等訪問(苫小牧市、むかわ町、厚真町、安平町、JAとまこまい広域、空知総合振興局、胆振農業改良普及センター東胆振支所)
- 16) 11月10日  
たまねぎセミナー
- 17) 11月26日  
北海道新規就農フェア
- 18) 1月23日  
新規参入予定者(ベーシックセミナー)
- 19) 3月7日  
市町村等訪問(豊浦町)

#### (2) 事業課との打合せ

- 1) 12月26日  
相手方 北海道農政部農業経営課、農産振興課、技術普及課、農業研究本部  
内容 平成28年度研修事業結果と平成29年度研修事業予定の説明、意見交換
- 2) 2月24日  
相手方 北海道農政部農業経営課、農産振興課、技術普及課、農業研究本部  
内容 研修事業のあり方の検討

#### (3) 専門委員会開催内容

- 1) 研修事業運営委員会の構成  
(平成28年4月現在)  
委員長：福川英司(技術研修G研究主幹)

副委員長：柳田大介・植野玲一郎(技術研修G)

委員：新津康子・市川雅一(総務課)、

鈴木亮子・黒島学(花き野菜G)、

後藤英次・佐々木純(生産環境G)

アドバイザー：池田信(上席普及指導員 技術普及

室)、小林孝夫(主任普及指導員 技術

普及室)

事務局：清水政宏・高橋英樹(技術研修G)

## 2) 開催内容

### ① 第1回委員会 (5月30日)

#### ア) 協議事項

- ・品目別セミナーについて
- ・フォローアップセミナーについて

#### イ) 報告事項

- ・平成28年度総合、専門技術研修受講状況について

### ② 第2回委員会 (10月4日)

#### ア) 協議事項

- ・品目別セミナーについて
- ・平成29年度総合技術研修日程及び研修生募集について
- ・平成28年度ベーシックセミナー及び新技術セミナー開催日程について
- ・研修寮での昼食提供について
- ・研修事業の検証について

#### イ) 報告事項

- ・平成28年度総合、専門技術研修受講状況について

### ③ 第3回委員会 (1月5日)

#### ア) 協議事項

- ・平成28年度ベーシックセミナーについて
- ・20周年記念新技術セミナーについて
- ・平成29年度研修事業実施計画(案)について
- ・研修寮での昼食提供について
- ・研修事業の検証について

#### イ) 報告事項

- ・平成29年度総合技術研修について

### ④ 第4回委員会 (1月25日)

#### ア) 協議事項

- ・20周年記念新技術セミナーについて
- ・平成30年度総合技術研修日程について
- ・研修寮での職員への昼食提供について

#### イ) 報告事項

- ・平成29年度総合技術研修について

### ⑤ 第1回委員会 (3月3日)

#### ア) 協議事項

- ・平成29年度総合技術研修カリキュラムについて
- ・平成29年度研修事業計画について
- ・平成29年度市民園芸セミナー開催内容の検討について
- ・研修事業の見直し検討について

#### イ) 報告事項

- ・平成29年度総合技術研修について
- ・研修寮での職員への昼食提供について

## 3 北海道花き・野菜技術研修

### (1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

#### 1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	7名
土壌肥料コース	2名
病害虫コース	1名
土壌肥料及び病害虫コース	1名
合 計(延べ)	10名

#### 2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
南口 靖	ホクレン 肥料(株)	5/16~5/27	野菜栽培管理
堀 大樹	ホクレン 肥料(株)	5/16~5/27	野菜栽培管理
仲澤 拓巳	ホクレン	5/18~7/8	土壌診断及び病害虫防除技術
山口 義之	農大生	6/1~8/31	野菜栽培管理
畠山 信吾	ホクサン (株)	6/20~7/8	病害虫防除技術
中野 恵美	滝川市	6/16~9/30	野菜栽培管理
須田 和雅	拓殖短大	11/9~11/10	いちごの作物体分析

杉野雅人	拓殖短大	11/9～11/10	いちごの作物体分析
榎本久美子	滝川市	2/20～4/10	野菜栽培管理
中野恵美	滝川市	2/20～4/10	野菜栽培管理

## (2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

1) 期間 4月12日～10月5日

2) 受講者数

花きコース 1名

野菜コース 2名

3) 総合技術研修の受講者

氏名	所属等	備考
田中学	秩父別町	花きコース
山田雅之	滝川市	野菜コース
水野雄貴	当麻町	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時間
講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌肥料(後藤主査(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除(美濃研究主幹、佐々木主査、白井研究主査(生産環境G))</li> <li>・施設資材利用等(外部講師)</li> <li>・主要花き栽培技術(鈴木主査(花き野菜G)、小林主任普及指導員(技術普及室)、植野主査(技術研修G))</li> <li>・主要野菜栽培技術(黒島主査、田縁研究主査、木村研究主任、江原研究主任(花き野菜G)、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G))</li> <li>・雑草防除の基礎(岸田職員)</li> <li>・花きの出荷調整と品質保持(鈴木主査(技術研修G))</li> <li>・花きの流通と市場システム(小林主任普及指導員(技術普及室))</li> <li>・野菜の流通と野菜システム(池田上席普及指導員(技術普及室))</li> <li>・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G))</li> <li>・経営管理(外部講師)</li> </ul>	花き 63時間 野菜 69時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーン農業(外部講師)</li> <li>・農業金融制度(空知総合振興局)</li> <li>・その他(安積研究部長、池田上席普及指導員(技術普及室))</li> </ul>	
演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要花き栽培等(鈴木主査(花き野菜G)、植野主査(技術研修G))</li> <li>・主要野菜栽培等(黒島主査、木村研究主任、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G))</li> <li>・土壌診断等(野田研究主査(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除技術(美濃研究主幹、佐々木主査(生産環境G))</li> <li>・園芸資材の実際(外部講師)</li> <li>・ハウス組立(柳田主査、梶山主任ほか(技術研修G))</li> <li>・作業機械操作実習(柳田主査、梶山主任ほか(技術研修G))</li> </ul>	花き 88時間 野菜110時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要花きの栽培管理(花き10品目(講師は講義・実習と同じ))</li> <li>・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ))</li> </ul>	花き 527時間 野菜 491時間
その他	卸売市場、先進農家等	花き 21時間 野菜 24時間
	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	花き 148時間 野菜 153時間
合計		花き 847時間 野菜 847時間

## (3) 基礎技術研修(ベーシックセミナー)

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

1) 期間

1月23日～1月27日(5日間)

2) 受講者数

花きコース 2名

野菜コース 27名

3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 2時間 野菜 2時間	花き:鈴木主査(花き野菜G)

主要品目の栽培技術	花き 11時間 野菜 11時間	野菜:黒島主査(花き野菜G) 花き:鈴木主査(花き野菜G)、小林主任普及指導員(技術普及室)、植野主査(技術研修G) 野菜:黒島主査、田縁研究主査、木村研究主任、(花き野菜G)、池田上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G)
土壌改良と施肥管理	2時間	後藤主査(生産環境G)
病害虫	2時間	佐々木主査(生産環境G)
園芸施設資材の特性と利用技術	2時間	外部講師
花きの輸送と鮮度保持	花き 2時間	植野主査(技術研修G)
野菜の流通と内部品質	野菜 2時間	田丸研究主査(生産環境G)
農地制度の基礎	2時間	外部講師
経営管理概論	3時間	外部講師
新規就農者の経営事例	2時間	農業者ほか
総合討論	2時間	農業者ほか
花・野菜技術センターの概要、技術開発と普及	1時間	長沢場長、池田上席普及指導員(技術普及室)
計	花き野菜 各31時間	

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

◇受講者数 26名

#### 2) たまねぎセミナー2016

道産たまねぎの安定供給と生産農家の収益性向上に資するため、道総研が新たに開発した施肥コストの低減や気象の影響を受けにくい安定栽培法、新品種の紹介、新技術の現地導入事例の発表を行った。

◇日 時 平成28年11月10日

◇場 所 大雪クリスタルホール

◇内 容

- ・講 演

①「北海道産たまねぎの現状と展望について」

講師：ホクレン農産事業本部種苗園芸部玉ねぎ馬鈴しょ課

課長 高橋克典氏

②「新しいたまねぎの施肥技術」

講師：北見農業試験場生産環境G

主査 小野寺政行氏

③「たまねぎ直播栽培技術の問題点とその対策」

講師：十勝農業試験場地域技術G

主査 平井 剛氏

④「たまねぎ新品種「北見交65号」

講師：北見農業試験場地域技術G

研究主任 杉山 裕氏

⑤「たまねぎ高畦移植栽培技術の実際

講師：花・野菜技術センター技術研修G

主査 柳田 大介

⑥「新しいたまねぎ栽培技術の現地導入事例紹介～札幌市」

講師：石狩農業改良普及センター石狩北部支所

専門普及指導員 竹永遵一氏

◇受講者数 153名

#### (4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

##### 1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

◇日 時 平成28年6月24日

◇場 所 花・野菜技術センター

◇内 容

3)花・野菜新技術セミナー開設20周年記念新技術セミナー～花・野菜技術センター「新技術セミナー2017」～

平成28年度に新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術などの研究成果について、農業関係者などに速やかな普及定着を図るため開催した。

なお、併せてセンター開設20周年記念講演を実施した。

◇日時 平成29年2月21日

◇場所 ホテルスエヒロエレガンスホール

◇内容

・新技術伝達

①「氷なしでもシャキッと新鮮！ブロッコリーの低コスト流通法」

講師：花・野菜技術センター生産環境G

研究主査 野田智昭

②「レタスの特徴はタイプによってどこが違う？品種や施肥、シャキシャキ感」

講師：花・野菜技術センター生産環境G

主査 後藤英次

③「ミニトマトの斑点病・葉かび病・すずかび病の特徴と防除法」

講師：花・野菜技術センター生産環境G

研究主査 白井佳代

④「平成29年に特に注意すべき病害虫」

講師：花・野菜技術センター生産環境G

主査 佐々木純

・記念講演「20周年を迎えた花・野菜技術センターへの提言」

①「花・野菜技術センターの20年間のあゆみ」

講師：花・野菜技術センター  
研究部長 安積大治

②「生産現場から花・野菜技術センターに望むこと」

講師：北空知広域農業協同組合連合会  
花き事業部

考査役 川名淳二氏

③「流通・販売現場から花・野菜技術センターに望むこと」

講師：ホクレン農業協同組合連合会種苗園芸部野菜果実花き課

特任技師 柳山浩之氏

④「教育機関から花・野菜技術センターに望むこと」

講師：拓殖大学北海道短期大学  
教授 大道雅之氏

◇受講者 163名

(5)市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

1) 市民園芸セミナー

◇日時 平成28年5月10日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

・講義「上手な野菜づくり」

講師：北海道農政部技術普及課

上席普及指導員 池田信

◇参加者数 13名

2) フラワーデザインセミナー

◇日時 平成28年8月5日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

・フラワーアレンジメント教室

講師：池坊光明流清美会

宮西祥香氏、金山祥明氏

◇参加者数 20名

(6)その他の研修

1) JICA研修員受入事業（滝川市国際交流事業）

◇日時 平成28年8月22日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 花・野菜技術センターの概要、試験研究と普及事業との連携等

◇参加者数 8名（モザンビーク共和国）

2) 農業大学校（稲作経営専攻コース）研修生受入

◇日時 平成28年8月30日～9月2日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容 花・野菜技術センターの概要等

◇参加者数 10名

3) インターンシップ「試験研究体験ゼミナール」

◇日 時 平成28年8月29日～9月2日

◇場 所 花・野菜技術センター

◇内 容 研究補助、作業体験等

◇参加者数 1名(北海道大学学生)

(滝川市国際交流事業)

◇日 時 平成29年3月1日

◇場 所 花・野菜技術センター

◇参加者数 3名(モンゴル国研修生)

◇内 容 花・野菜技術センターの概要、野菜の播種状況、農業機械の紹介等

4) JICA草の根技術協力事業

4 研修ほ場等作付概要

区分	品 目	品 種	作 型
花き	デルフィニウム	シネンシス系(スーパーグランプルー、スーパーブラチナブルー、さくらひめ)、エラータム系(トリトナイトブルー)	5月播種、無加温9月切り
	ひまわり	ピンセントタンジェリン、ピンセントポメロ、サンリッチオレンジ45	5月播種8月切り 6月播種9月切り
	スターチス・シヌアータ	フレンチパイオレット、オーキッドピンク、パールブルー、カシミヤ、レモンライム	5月定植8-10月切り
	トルコギキョウ	パールホワイト、マリアホワイト他、13品種	5月定植8-10月切り
	ゆり	シベリア、シエイラ、ロイヤルトリニティー、パピア	6月植え無加温夏秋切り(冷凍球利用)
	ミニシクラメン	ジャイブ混合、ピカソ混合	2月播種晩秋～初冬咲き
	花壇苗	ペゴニア、サルビア他、10品種	6月定植
野菜	トマト	CF桃太郎ファイト、キャロル10	半促成
	かぼちゃ	えびす、TC2A(ほっとけ栗たん)	露地ポリ鉢育苗
	レタス	スパーク、シルル	春夏まき
	スイートコーン	味来390、ピュアホワイト	露地直播
	たまねぎ	北もみじ2000、オホーツク222	春まき(移植)
	キャベツ	楽園、おきな	晩春まき(9月どり)
	だいこん	貴宮、蒼の砦	初夏まき
	メロン	ルピアレッド、北かれん、FG14、ルピアレッド(台木:どうだい4号)	無加温半促成
	いちご	すずあかね、よつぼし、エラン	夏秋どり(高設栽培)
	ピーマン	さらら、ピクシー	半促成
	ブロッコリー	サマーポイント、おはよう	晩春まき
	ねぎ	北の匠、元蔵、夏山一本太	春まき夏秋どり
	アスパラガス	ゼンユウガリバ、ガインリム、スーパーウエルカム	露地

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。



## VI 研究発表並びに普及事項

### 1. 研究報告・資料

#### (1) 研究報告

○池谷美奈子・野津あゆみ・白井佳代. 異なる接種時期からみたタマネギの灰色腐敗病に感染しやすい生育ステージ. 北日本病害虫研究会報. 67:108-111(2016).

○Atsuko Uragami・Reiichirou Ueno・Atsushi Yamasaki・Kentaro Matsuo・Takayuki Yamaguchi・Hideo Tokiwa・Tamio Takizawa・Hiroaki Sakai・Takao Ikeuchi・Shin-ichi Watanabe・Kuninori Matsunaga・Miyuki Kuniyama・Hiroaki Kitazawa・Satoru Motoki. Productive Differences between Male and Female Plants in White Asparagus Production Using the Rootstock-planting Forcing Culture Technique. The Horticulture Journal. Vol. 85, No. 4:322-330 (October, 2016).

○Shirai, K. Y. Nishiwaki, S. Kobayashi and M. Satou. First report of downy mildew of static caused by *Peronospora statices* in Japan. Journal of General Plant Pathology. 82:212-215(2016).

○野津あゆみ・佐々木純・堀田治邦. ジャガイモYウイルスの普通系統に対するモノクローナル抗体作製とELISA法への適用. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 100:22-31(2016).

○細淵幸雄・富沢ゆい子・植野玲一郎・菅原章人. 北海道におけるリーキの収量性におよぼす品種、株間および窒素施肥量の影響. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 100:88-93(2016).

○Nakagawa Toshiyuki・Itoh Masanori・Ohta Kazunori・Hayashi Yuichi・Hayakawa Miki・Yamada Yasushi・Akanabe Hiroshi・Chikaishi Tokio・Nakagawa Kiyomi・Itoh Yoshinori・Muro Takato・Yanagida Daisuke・Nakabayashi Ryo・Mori Tetsuya・Saito Kazuki・Ohzawa Kaori・Suzuki Chihiro・Li Shimo・Ueda Masashi・Wang Miao-Xing・Nishida Emika・Islam Saiful・Tana・Kobori Masuko・Inuzuka Takashi. Improvement of memory recall by quercetin in rodent contextual fear conditioning and human

early-stage Alzheimer's disease patients. Neuro report. 27(9):671-676(2016).

#### (2) 口頭発表

○池田信・柳田大介・佐々木純・荻野瑠衣. タマネギのネギハモグリバエ加害実態に関する調査研究. 北海道園芸研究談話会会報. 第50号:44-45(2017).

○木村文彦・山田雅之・柳田大介・黒島学・鳥越昌隆. 種子繁殖型イチゴ‘よつぼし’の北海道における夏秋どり栽培の可能性(第2報)収量確保に向けた育苗方法および長日処理の検討. 北海道園芸研究談話会報. 50:36-37(2017).

○鈴木亮子. 北海道の花き研究—農業試験場の取り組み. 北海道園芸研究談話会. 平成28年度第2回例会.

○高濱雅幹・野田智昭・植野玲一郎・宗形信也. 北海道南部地域におけるサツマイモの定植・収穫時期が収量および品質に与える影響. 園芸学研究. 15別2. 419(2016).

○高濱雅幹・野田智昭・植野玲一郎・宗形信也・大久保進一・尾崎洋人. サツマイモ切り苗育苗の栽培および採苗条件が苗生産に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 50:20-21(2017).

○野田智昭・吉田慎一・岸田力哉・小宮山誠一・後藤英次. 流通過程の積算温度がMAフィルム包装したブロッコリーの鮮度に与える影響. 園芸学研究. 16(別冊1):260(2017).

#### (3) 著書・資料

○池田信(共同編集). 北海道野菜地図(その40). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2017)

○植野玲一郎(共同編集). 北海道フラワーガイド(その25). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会.(2017).

○小林孝夫(共同編集). 北海道フラワーガイド(その25). 編集発行北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2017)

○鈴木亮子(共同編集). 北海道フラワーガイド(そ

の24). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2016).

○柳田大介(共同編集). 北海道野菜地図 (その40). 編集発行:北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会. (2017).

#### (4)専門雑誌・記事等

○池田信. 圃場で簡単にできるイモムシ型幼虫の見分け方. 農家の友. 68(7):70-72 (2016)

○池田信. タマネギにおけるネギハモグリバエの葉身加害実態とりん茎被害の関係. 農家の友. 69(3):36-38 (2017)

○植野玲一郎. トマト「マルハナバチと単為結果性品種」. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 106-109(2016).

○植野玲一郎. 簡易軟白ねぎ. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 118-121(2016).

○植野玲一郎. ねぎの栽培技術を応用したリーキの栽培法. グリーンレポート. 565(7):10-11 (2016).

○植野玲一郎. 農学校1年1組 トマトの時間 新しい栽培技術②「マルハナバチの法的規制で単為結果性品種に期待」. ニューカントリー. 63(12):54-55(2016).

○生方雅男. 自然エネルギーの利用. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 85-87(2016).

○江原 清. 低温対策. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 30-34(2016).

○江原 清. ほうれんそう(雨よけ栽培). ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 126-129(2016).

○小田義信. アスパラガス(立茎栽培). ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 167-170(2016).

○木村文彦. 大粒で多収いちご新品種「空知35号」. 技術特集. ニューカントリー. 63(4):10-11(2016).

○木村文彦. 環境測定. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 74-75(2016).

○木村文彦. いちご(高設栽培). ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 148-153(2016).

○木村文彦. いちご新品種「空知35号」. 北農. 83:48(2016).

○木村文彦. イチゴ新品種「空知35号」の特性. 農家の友. 68(9):48-49(2016).

○木村文彦. 研究の最前線「いちご空知35号」. あぐりさろん 21. 65:3(2016).

○木村文彦. 北海道の新しい春どりイチゴ品種「空知35号」. JATAFFジャーナル. 5(1):16-17(2017).

○黒島学. 赤肉メロン「北かれん」の高品質栽培法. ニューカントリー. 63(6):56-57(2016).

○黒島学. 第3章栽培技術(作物別)ほうれんそう寒締め栽培. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 130-131(2016).

○黒島学. 第3章栽培技術(作物別)ピーマン. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 160-163(2016).

○小林孝夫. 特集/28年技術総括(花き). 農家の友. 68(12):30-31(2016)

○小林孝夫. 2017作物展望(花き). ニューカントリー. 64(1):48-49(2017)

○白井佳代. 北海道の施設野菜 I P M (病害対策). ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 60-63(2016).

○鈴木亮子. 切り花ダリア 新しい切り前と品質保持法. ニューカントリー. 63(7):52-53(2016).

○鈴木亮子. 風対策. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 16-17(2016).

○鈴木亮子. 雪対策. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 21-22(2016).

○田丸浩幸. 露地春まきねぎ被覆尿素肥料「セラコートR」の基肥一括施肥で分施を省略. ニューカントリー. 64(3):46-47(2017)

○田縁勝洋. CO2施用. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 72-73(2016).

○田縁勝洋. LEDの利用. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」.

○鳥越昌隆. すいか. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 139-142(2016).

○野田智昭. 土壌還元消毒後のトマト栽培における施肥指針. 土づくりとエコ農業. 49:2-5(2017)

○福川英司. 気象に対応したハウス構造—高温対策(換気・冷房). ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 35-38(2016).

○柳田大介. 生理障害対策. ニューカントリー 2016 年秋季臨時増刊号「北海道の施設野菜」. 68-69(2016).

### (5)新聞記事・広報誌、放送等

○美味しさ先取り！イチゴ品種改良に潜入. STV「どさんこワイド179」. (2016.5).

○木村文彦. 北海道の新しい春どりいちご品種「ゆきララ」. 農業共済新聞. (2017.2).

○木村文彦. いちご新品種「ゆきララ」について. 北海道新聞. (2017.3).

○木村文彦. 北海道の新しい春どりいちご品種「ゆきララ」. 日本農業新聞. (2017.3).

○黒島 学. 赤肉メロン「北かれん」の高品質栽培技術. 農業共済新聞. (2016.4).

○小林孝夫. 2017道農業の検証(花). 日本農業新聞. (2017.1)

### (6)出願公表

該当なし

### (7)品種登録

該当なし

### (8)受賞

該当なし

## 2. 印刷刊行物

該当なし

## 3. 普及事項

### (1)普及奨励事項

該当なし

### (2)普及推進事項

○MA包装フィルムを用いたブロッコリーの低コスト・鮮度保持流通技術

### (3)指導参考事項

○春夏まきレタスの品種特性および窒素施肥技術と食感評価法の開発

○レタス及びブロッコリーに対するセル成型育苗培土「新プラグエース」の育苗適応性

○ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の発生実態と防除対策

○たまねぎの灰色腐敗病に対するフルオピラム水和剤Fの効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するペンチオピラド・TPN水和剤Fの効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するメトコナゾール水和剤(未登録)の効果

○たまねぎの小菌核病に対するプロシミドン水和剤の効果

○ブロッコリーの花蕾腐敗病に対するシュードモナス ロデシア水和剤の効果

○ブロッコリーの花蕾腐敗病に対する銅(水酸化第二銅)水和剤DF(46.1%(銅として30.0%))の効果

○ミニトマトの斑点病に対するイプロジオン水和剤の効果

○ミニトマトの斑点病に対するイミノクタジナルベシル酸塩水和剤Fの効果

○ミニトマトの斑点病に対するTPN水和剤Fの効果

○ミニトマトの斑点病に対するペンチオピラド水和剤Fの効果

○ミニトマトの斑点病に対するピリベンカルブ水和剤DFの効果

○ミニトマトの葉かび病に対するイミノクタジナルベシル酸塩水和剤Fの効果

○ミニトマトの葉かび病に対するTPN水和剤Fの効果

○ミニトマトの葉かび病に対するピリベンカルブ水和剤DFの効果

○ミニトマトの葉かび病に対するマンゼブ水和剤Fの効果

○ミニトマトのすすかび病に対するTPN水和剤

#### Fの効果

- ミニトマトのすすかび病に対するピラクロストロビン・ボスカリド水和剤DFの効果
- サヤインゲンに対する除草剤「AC-263液剤」  
(出芽直前処理)の実用化
- サヤインゲンに対する除草剤「AC-263液剤」  
(出芽期処理)の実用化
- にんじんに対する除草剤「SL-122顆粒水和剤」  
(播種後出芽前処理)の実用化
- アスパラガスに対する除草剤「NC-622液剤」  
(畦間茎葉処理、スギナ)の実用化

#### (4)研究参考事項

該当なし

## Ⅶ その他

### 1. 職員の研修

#### (1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
市川 雅一	会計制度研修	道総研本部	札幌市	28. 4. 21 ~ 28. 4. 21
高林 仁和	新任課長研修	道総務部	札幌市	28. 6. 6 ~ 28. 6. 6
野田 智昭	栽培試験における観測技法と利用	農環研	つくば市	28. 6. 7 ~ 28. 6. 10
美濃 健一	新任研究主幹級研修	道総研本部	札幌市	28. 7. 14 ~ 28. 7. 15
植野 玲一郎	新任主査級研修	道総研本部	札幌市	28. 9. 15 ~ 28. 9. 16
福川 英司	研究開発能力研修	道総研本部	比布町	28. 10. 14
植野 玲一郎	研究開発能力研修	道総研本部	札幌市	28. 10. 20

#### (2) 職場研修（集合・伝達研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修(農作業安全研修会)	28. 5. 26	15:30	技術研修G主幹 福川 生産環境G主査(病虫) 佐々木 総務課主査(総務) 新津	35
職場研修(消防訓練)	28. 10. 17	13:30	中央防災システム(株) 担当者	30
職場研修(救命講習会)	28. 10. 31	14:30	滝川地区広域消防事務組合救 急救助課救急係 担当者	28
職場研修(危機管理)	29. 2. 24	13:30	総務部長 高林	15

### 2. 見学・参観

月日	団体名 (人数)	月日	団体名 (人数)
6月9日	農家の茶屋 自然満喫倶楽部 (2)	8月2日	秩父別町加工用トマト生産部会 (15)
6月14日	余市町イチゴ生産出荷組合 (11)	8月5日	和歌山県農業大学校 (5)
6月16日	新おたる農業協同組合 (5)	8月8日	農技研機構 革新工学センター (7)
6月16日	J A三島函南苺組合青壮年部 (8)	8月10日	北海道富良野緑峰高校園芸学科畑作 園芸班 (4)
6月17日	道銀アグリビジネス (22)	8月23日	札幌東青色申告会連合会(女性部) (30)
6月23日	蘭越町花き研究会 (2)	8月24日	農家の茶屋 自然満喫倶楽部 (2)
7月5日	ホクレン農業協同組合連合会 名古屋支店 (4)	8月26日	花仙人 (9)
7月6日	JAさっぽろ丘珠支店 (15)	8月26日	(株)丹波屋肥料部Aグループ (15)
7月7日	豊頃町農業協同組合 (2)	8月26日	空知エコ普及環づくり協議会 (モンゴル国) (8)
7月8日	そらち南農業協同組合 (9)	8月29日	中国・黒龍江省五大連池市視察団 (6)
7月8日	株式会社 夕張ツムラ (10)	9月2日	新篠津村農業塾 (16)
7月11日	北海道美幌高等学校 (2)	9月8日	高千穂地区営農振興協議会花き部会 (4)
7月20日	空知総合振興局 (100)		
7月20日	きたそらち苺生産組合 (6)		

月日	団体名	(人数)
9月8日	拓殖大学北海道短期大学	(55)
9月29日	北海道種苗協同組合	(20)
9月30日	広島県立西条農業高等学校	(31)
9月30日	当別町議会	(3)
10月6日	(一社)北海道総合研究調査会	(6)
10月27日	陝川郡庁(ハプチョン郡庁)	(10)
11月15日	西神楽農民連盟	(10)

月	団体数	人数
4月	0	0
5月	0	0
6月	6	50
7月	8	148
8月	10	101
9月	6	129
10月	2	16
11月	1	10
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	33団体	454人

### 3. 研修生の受入れ(研修事業以外)

#### (1) 普及指導員研修

##### 1) 専門技術研修(野菜) 7/4～7/8

研修項目	対象者	担当
主要野菜の現場対応に必要な課題解決手法の習得	後志(北後志) 馬着治子 十勝(本所) 加藤寛子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

##### 2) 専門技術研修(花き) 7/4～7/8

研修項目	対象者	担当
主要花きの現場対応に必要な課題解決手法の習得	渡島(本所) 萩原淳史 空知(南東部) 片山雅子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

### 3) 専門技術研修(野菜)

6/6～6/10, 7/25～7/29, 9/12～9/16

研修項目	対象者	担当
野菜栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	空知(北空知) 橋本和幸	技術普及課 技術普及室 技術研修G 花き野菜G 生産環境G

## 4. 委員会活動

### (1) 各専門委員会の名簿

(平成28年4月1日現在)

#### ア. 業務委員会

福川英司(委員長)、岩橋広樹(総務課)、木村文彦(花き野菜G)、野田智昭、白井佳代(生産環境G)、柳田大介、南 貴夫、寺口佳孝(技術研修G)

#### イ. 環境整備委員会

鳥越昌隆(委員長)、岩橋広樹(総務課)、後藤英次(生産環境G)、玉川 忠(技術研修G)

#### ウ. 情報・図書委員会

美濃健一(委員長)、新津康子、市川雅一(総務課)、黒島学(花き野菜G)、後藤英次(生産環境G)、高橋英樹(技術研修G)、佐々木純(システム委員)

#### エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

### (2) 各専門委員会の活動

#### 1) 業務委員会

##### ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月7日～11月24日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月1日～3月30日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月21日

##### イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事(排水路、暗渠)
- (エ)ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

##### ウ. 主催行事

- (ア) 蒔付祝い 6月23日
- (イ) 収穫祭 10月21日

## 2) 環境整備委員会

(ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理

(イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他(6/23)、チューリップ(10/18)の定植

(ウ) 旧十勝道路沿い：ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い

(エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

## 3) 情報・図書委員会

ア. 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(5月9日)：活動・予算計画
- ・第2回情報図書委員会(3月24日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

イ. 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサルの開催(6月13日)
- ・普及センター等への参加呼びかけ
- ・ハウス群の試験内容の掲載徹底

ウ. 場の広報に関する事

- ・平成27年度年報と花・野菜技術センター紹介パンフレットの作成と配布
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)

エ. 法人情報システム(含むホームページ)の管理・運営に関する事

- ・HPの更新(研修情報他広報関連11回、事務関連3回の合計14回更新)
- ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)

オ. 図書の整備(購入)および管理に関する事。

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・成績書および定刊等の製本
- ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施

## 5. 公開デー2016の実施

8月5日(金)に実施。

(来場者数：224名)

(ア) 屋内会場の催し物

○フラワーデザインセミナー(技術研修G)

○作ってみましょう！レインボーフラワー(花き野菜G)

○病害虫診断コーナー(生産環境G)

○土壌診断コーナー(生産環境G)

○園芸相談コーナー(技術普及室)

○パネル展示コーナー

○マチローパーティー

○木工細工コーナー

○YES!clean展示

○展示温室：ピーマン(ピー太郎)、唐辛子(甘とう美人)、カンナ、つるむらさき、アマランサス(ブルーアイMIX)、ゼラニウム(ホライゾンMIX)、なす(あのみのみ)、オクラ(エメラルド、グリーンスター、アーリーファイブ)、かぼちゃ(バターナッツ)、ズッキーニ(丸ズッキーニ(グリーン、エッグ、ゴールドイー))、ゴーヤ(青、白)、シカクマメ

(イ) 屋外会場の催し物

○メロン品種の試食(花き野菜G)

○苗当てクイズ(花き野菜G)

○農業機械展示(技術研修G)

○リクガメふれあいコーナー

○飲食及び農産加工品直売コーナー  
滝川食と農を考える女性の会  
手作りの家とまと

○バスによる圃場見学

○研修生による生産物の試食、販売

## 6. 講師等の派遣

○鈴木亮子. 暮らしの中に北海道の花を一切り花を長く楽しむための科学ー. 道総研ティータイムセミナー「午後の科学」. (2016.5.21)

○鈴木亮子. 切り花を長く楽しむための講習会. 平成28年度さっぽろ花き市場まつり(2016.7.16)

○鈴木亮子. 北海道の花き研究ー農業試験場の取組. 北海道園芸研究談話会第2回例会(2016.10.14)

○鈴木亮子. 「良日持ち性および萎凋細菌病抵抗性を有するカーネーション品種の育成」について. 平成28年度北海道花き生産連合会カーネーション部会講習会(2017.2.13)

○野田智昭 施設を利用した予冷、貯蔵による農

産物の鮮度保持. 北海道立農業大学校 (2016. 10. 28)

○後藤英次 おいしさを保持する流通について. 北海道土を考える会 (2017. 3. 6)

○白井佳代. ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法. 上川農試新技術発表会 (2017. 2. 20)

○美濃健一. 氷なしでもシャキッと新鮮! ブロッコリーの低コスト流通法. 道央圏新技術発表会 (2017. 2. 23)

○白井佳代. ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法. 日高地域農業技術支援会議 (2017. 3. 2)

○白井佳代. ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法. 後志地域農業技術支援会議 (2017. 3. 14)

○柳田大介. 特別講義(二)『医食農連携のススメ』学部2年生対象 テーマ「玉ねぎの育種を通じた機能性開発」. 東京農業大学生物産業学部 (2016. 12. 8)

○池田信. 農畑作物関連栽培技術等研修. 北海道農協共済組合連合会 (2017. 2. 7)

○池田信. ネギハモグリバエ対策会議. 北海道 (2017. 1. 11)

○小林孝夫 北海道ばら研究会セミナー (2017. 3. 10)

## 7. 各種委員

○生方雅男. 地熱・温泉熱アドバイザー. 北海道経済部

○生方雅男. 北海道養液栽培(植物工場)研究会運営委員

○鈴木亮子. 鉢物品評会 2016 鉢花・蘭の部審査員. 愛知県豊明市 (2016. 11. 16)

○福川英司. 日本植物調節剤研究協会専門調査員

○植野玲一郎. 北海道フラワーガイド編集委員

○柳田大介. 北海道野菜地図編集委員



## Ⅷ 自己点検への対応

事 項	件数等		
	H28	H27	H26
研究ニーズ調査によるニーズ把握件数	0	0	0
各機関に直接寄せられたニーズ把握件数	4	11	14
次年度新規課題となったニーズ件数	1	0	4
「研究展開方向」に定める研究課題数	0	0	0
重点研究課題数	0	0	0
うち新規重点研究課題数	0	0	0
うち企業と連携した課題数	0	0	0
経常研究課題数	11	8	13
うち新規経常研究課題数	0	2	3
道受託研究課題数	2	0	3
うち新規道受託研究課題数	0	0	0
公募型研究への応募課題数	3	5	2
うち採択数	1	-	1
公募型研究課題数	6	5	3
うち新規公募型研究課題数	4	2	1
公募型研究の管理法人実施件数	0	0	0
一般共同研究課題数	1	1	2
うち新規一般共同研究課題数	1	0	2
受託研究課題数	7	6	10
うち新規受託研究課題数	3	3	7
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	2	3	3
研究成果発表会・企業向けセミナーへの延べ参加者数	243	314	322
研究会等の開催件数	0	0	0
研究会等への延べ参加者数	0	0	0
展示会等への出展件数	1	1	2
普及組織との連絡会議等開催件数	26	19	29
企業等へ訪問し広報活動した件数	1	14	4
出願中特許件数	0	0	0
うち特許等新規出願件数	0	0	0
特許権等保有件数	0	0	0
うち特許等新規登録件数	0	0	0
うち特許権等放棄・権利消滅件数	0	0	0
出願品種数	0	3	0
うち新規出願品種数	0	3	0

事 項	件数等		
	H28	H27	H26
登録品数	26	26	26
うち新規登録品数	0	0	0
うち育成者権登録抹消・存続期間満了品数	1	0	0
ノウハウ指定された技術数	0	0	-
特許等の実施許諾件数	0	0	-
登録品数等の利用許諾件数	18	18	15
課題対応型支援の実施件数	0	0	-
技術審査件数	0	1	0
研修会・講習会等の開催件数	7	9	11
研修会・講習会等の延べ参加者数	310	586	515
研修者の延べ受入人数	73	163	103
うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数	14	68	45
うち大学等の学生の受入人数	4	1	8
連携協定等の締結件数(通算)	0	0	0
道関係部との連絡会議等の開催件数	33	34	5
市町村との意見交換等の開催件数	1	1	3
道民意見把握調査の回答数	276	206	121
うち業務の改善意見数	7	11	0
うち改善意見に対する対応件数	0	0	0
関係団体等との意見交換等の開催件数	4	8	4
職員奨励事業課題数	0	0	1
うち業績型研究課題数	0	0	0
うちシーズ探索型研究課題数	0	0	0
うち技術支援型研究課題数	0	0	1
海外研修の派遣件数	0	1	0
海外研修の派遣人数	0	1	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣人数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	2	2	0
国内研修Ⅱの派遣人数	2	2	5
視察者・見学者受入件数	34	35	40
視察者・見学者の延べ受入人数	465	646	869
出前授業の実施件数	2	0	-
道民向けイベントの開催件数	3	3	-
うち公開デー等の開催件数	1	1	-
道民向けセミナーの開催件数	1	-	2

事 項	件数等		
	H28	H27	H26
道民向けイベントの延べ参加者数	490	228	-
うち公開デー等の延べ参加者数	224	183	-
道民向けセミナーの延べ参加者数	-	-	43
国際協力事業等への協力件数	6	7	6
グリーン購入の金額(千円)	3,611	997	1,715

ISSN 1346-7506

---

---

平成28年度 (2016)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター年報

---

平成30年3月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)

---

---